

第4回セミナーを7月25日(土)13:30～15:30 に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会 場 愛知文教大学 201教室

テ ー マ 「学び合う学びの質を高める ～桃陵中学校の取り組みを通して～」

授 業 者 小牧市立桃陵中学校 加藤 俊輔 先生

コメンテーター 学び合う学び研究所フェロー 後藤 孝文 先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、対話からの学びです。

タブレットの存在が全く気にならない授業でした。資料提示の一つの道具として使われており、タブレットを使うことが目的化されていませんでした。当たり前ようですが、これが実現できていない授業が最近増えてきているように思います。

加藤先生が目標としている「家庭でニュースが議論できる生徒を育てる」が、実現できている様子が授業から伝わってきました。世の中の出来事に関心を持つことは、教科書の中の知識の世界を「自分事」にしていくための入口だと思います。これができているからグループ対話に深みが増していくのでしょうか。生徒たちは、対話を通して「高度経済成長」を自分たちなりに理解しようと努力しているようでした。

後藤先生がセミナーの中で指摘した28Tの「今の時代につながることはない？」の発言は、改めて考えてみるととても深い意味が込められていると思いました。歴史は単なる過去のことでなく、今につながる大切なファクターです。社会という教科が、過去から学び未来を考える教科であることを再認識できました。

実りのあるセミナーでした。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、社会科は資料が大切！の深～い意味です。

加藤先生、後藤先生、丹羽先生ありがとうございました。社会科は資料が大切！の深～い意味を授業ビデオと先生方との対話からいっぱい学びました。そういうことか～、そのようなところもか～、そういうこともあるんだ～と、わかっていない自分に今日も気づきました。60T でわからなさや疑問を先生がききました。出てこなくて、考えたこととかを生徒がとなごうとしました。それが発表的発言？だったからか、あまり仲間のところに響いていないようでした。

社会科の若い先生方から、この生徒のつながが一部の生徒に偏るとかで、どうするといいのか？と相談を受けることがよくあります。先生方と実践する中で、中2や中3ではわからなさだけに絞りました。まさに「わからなさの傍らに学びの種がある」で、対話の時間が増え、わからなさが問いに発展し、深く考えることが増えたように思います。

「AI でわかった気になる」対応としてタブレットを閉じて考えさせることが話されました。私たちが話すことは、だれかから聞いたことか、本とかで読んだこととわかっています。AI も大切な資料のひとつです。小学校の算数で答えを出してわかった気になっている仲間に「どういうこと？」と訊いて逆転現象がおきることがよくあります（山梨の古屋先生の授業みたいに）。グループでは今日の授業でもありましたが、小学校でのツッコミ力を中学校でもどんどん発揮してほしいと思いました。

簡単にわかった気にならない、わからなさでモヤモヤすることを仲間と互いにケアし合うこと、それが学びの種になることをこれからも大切にしていきたいと思います。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、不易と流行の観点について、やはり原点だと思いました。特に「不易」の部分について、桃陵中の方向性、加藤先生の授業、後藤先生のご指摘、いずれも変えてならない本質的な部分だと思いました。SVとして訪問する学校で、再任用や臨任で発言力があるけど昔に固執している方がいます。例えば、「個人」→「グループでまとめる」→発表とか、座席配置がスクール席に固執ということから抜け出せない方がいます。これは時代に要求されたことにそぐわない点で「不易」とは言えないと思います。ICT活用の「流行」と本日の「不易」は相反することではなくともに大事にすべきだと教えていただいた気がします。今後の自分のSVとしての学校との関わりの中で生かしていきたいです。

子どもの動きを見ていて、友達の発表を聴ける子は学びが深まっていくと感じました。今日の授業記録の「E 1」さんがそうだと思います。また、加藤先生はケアし合うクラスを作っていると思いますが、子どもたち相互の関わり合いをさらにつなげていけると素晴らしいと思いました。本日のレフレクションで話題になっていた「B 2」さんの視点がまずはB班に生かされて、それがさらに学級全体に広がるといいと思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、手書きとタブレットの活用についてです。

貴重なお話をありがとうございました。社会科ということで「資料が大切」という意識をもっていたのですが、今回、お話をうかがって、資料を精査することやどのタイミングで提示していくとよいのか、改めて考えることになりました。子どもたちにとって、興味のある資料、読み取りがよいのある資料を思案し、その上で、めあてを達成できるような授業を展開していきたいと思いました。

また、タブレットにおいても鉛筆で書くことを中心にして、資料や知識を深める手立てとして活用していきたいと思いました。その上で対話を通して探求的な学びとなるよう思案していきたいと思いました。貴重な授業、お話をありがとうございました。